

鹿児島市観光農業公園 農業というより「観光」

環境教育常任委員会
鹿児島市視察
5月12・13日

厚木市議会環境教育常任委員会では、5月12・13日、鹿児島市の「観光農業公園 グリーンファーム」を視察してきました。釘丸久子議員が参加しました。

「鹿児島市観光農業公園 グリーンファーム」は、農業体験や都市と農村交流の拠点施設として、体験用農地や農産物直売館、農園レストラン棟を整備して、平成24年11月15日にオープンしました。

鹿児島市は、平成16年11月に周辺の5町（吉田町、桜島町、喜入町、松元町、郡山町）と合併しました。

平成18年度から観光農業公園（仮称）の整備基本計画の策定、場所の選定（喜入一倉地区）をし、平成23、24年度で整備したものです。敷地面積は41・3畧、市の所有地です。総事業費36億円のうち、大半は合併特例債の借り入れでまかれました。これは後で償還しなければなりません。

「観光」が主体

滞在型市民農園が20区画

広い園内には、管理棟、農産物直売館、農園レストラン、交流体験館、環境学習棟、キャン

今週の活動から

厚木市郷土資料館で5月18日～6月15日まで、「収蔵資料展 浮世絵名品展」を開催しています。「依知星降の図」などがあります。歌麿や春信の絵も。（釘丸久子議員）



5月18日、相模川三川合流地点などで「相模川サミット六市町村合同クリーンキャンペーン」が行われました。拾ったごみの多くはたばこの吸い殻でした。

（栗山香代子議員）



プ場などが配置されています。農業体験をしながら、丸一日のんびり過ごすことができます。そば打ち、黒豚のウインナーづくり、野菜パンづくりや、ジャガイモなどの収穫、間伐体験、廃食油の燃料化など、楽しみながらエコも学ぶことができます。また、滞在型市民農園が20区画整備されています。30坪の土地に簡易宿泊所と農園があり、年間22万円くらいで借りられます。週末に農作業を楽しみ、別荘として活用している人もいます。そうなんです。

足の確保と来場者が課題

施設は市職員5人と、嘱託職員14人、臨時雇用7人で運営されており、年間経費は正規職員給を除いて1億5千万円で、収入は1300万円。来場者を年間30万人と見込んでいたが、実績は20万人余りです。

ここは、市中心部から離れており、バスは1時間に一本程度と少ないため、公園までのアクセスが課題です。園バスを持っている幼稚園児の利用を呼びかけています。また、広報活動も強めていきたいとのこと。

市所有の土地のため、用地購入費がかからなかったこと、合併特例債の活用など整備のための経費は低く抑えられました。それでも36億円！
現在は市の直営で行っていますが、将来的には委託や指定管理に移行したいとしています。民間に移すにしても、採算性の問題が生じてきます。
厚木市で同じような施設を考えたとき、用地の確保が大きな課題になります。また、施設の維持管理費に比べて、収入が少ないのは、やはり問題になるでしょう。

話題あれこれ

議会報告会を4会場で実施

厚木市議会の議会報告会が、5月17日（土）18日（日）の2日間で開催されました。議会報告会も5回目となり、グループ構成を変えました。17日は依知南公民館（総務企画常任委）、睦合北公民館（市民福祉常任委）、18日は緑ヶ丘公民館（環境教育常任委）、アミューあつぎ（都市経済常任委）でした。

今回は、常任委員会ごとの報告で、パワーポイントを活用し、2月議会に審議した平成26年度予算の概要のほか、各委員会に関わること、地域で関心の高い事業、教育問題などが話題になりました。

環境教育常任委員会の、厚木の教育・いじめ問題についての意見交換では、市民からの意見や質問に、議員が自分の意見を答えたり、参加者からの意見も出て盛り上がりました。

参加者からは「毎回参加している。良くなってきた。一皮も二皮もむけた感じがする」との感想が述べられました。

次回は決算審査後の秋に実施予定です。次はどんな組み合わせがいいでしょうか。女性議員だけ、年齢・経験別など、皆さんはどんなグループがいいと思いますか。